



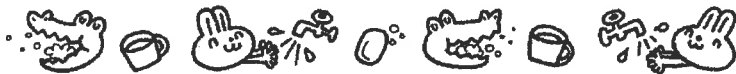
気がつけば、9月も終わりを迎えようとしています。ふと見上げる空はいつの間にか高くなり、青空の色も、夏の力強い青から少し淡く、やわらかな秋の色へと変わってきたように感じます。

10月に入ると、子ども達の園生活もさらに深まり、音楽リズムの活動や表現遊びなど、これまで積み重ねてきた経験を生かしながら、新たな活動へと広がっていきます。

友達と力を合わせる事、自分なりに表現すること、できるまで繰り返し挑戦すること、一つひとつの経験が繋がり、子ども達の「やってみたい」という意欲や自信へと変わっていく時期です。

爽やかな秋。これまで育ててきた小さな力が、どのように花開いていくのか…

子ども達のさらなる成長を、私達も楽しみに見守っていききたいと思います。



♡♡♡目指せ！オムツ卒業への第一歩♡♡♡

つぼみぐみでは、いよいよトイレットレーニングを本格化していきます。

暑さも少しずつ落ち着き、厚着になる冬を迎える前の今の時期は、実は絶好のタイミング。

目標はもちろん「オムツ卒業！」ですが、ここで大切なのは焦らないことです。

まずは、おしっこが出て出なくても、トイレに行ったら便器の前に立ってみる、座ってみる…

この「やってみる経験」を繰り返すことから始めます。

大人からすると「今日は出た？」「まだ出ない？」と、ついつい結果が気になりますが…

トイレットレーニングは競争ではありません。昨日できなくても、今日突然できるのが子ども。

ある日突然、「出たー！」という歴史的瞬間がやってきます（笑）。

そして、おしっこだけでもトイレでできるようになると、これはなかなかの大事業！

おむつ交換の回数が減り、パパ・ママの負担もグッと軽くなります。

そして何より子ども自身にとって、「自分でできた！」という大きな自信に繋がります。

幼稚園だけで頑張っても、なかなか前には進みません。ぜひご家庭でも、朝起きた時、お出かけ前、お風呂の前など、無理のない範囲で「ちょっとトイレに座ってみようか」と声を掛けてみてください。

園と家庭で歩調を合わせながら、焦らず、叱らず、でもちょっぴり本気で！

つぼみぐみの子ども達の「オムツ卒業への挑戦」を応援していきたいと思っています。



「絵本の世界を楽しむ」～言葉の出会いから、読み書きへ～

私達の身近には、赤ちゃんの頃から「絵本」があります。まだ文字を読むことができない小さな子ども、お父さんやお母さんの膝の上で絵本を開き、声を聞き、絵を眺めながら、たくさんを感じています。

國學院大学の吉永安里先生は、子どもにとっての絵本には、大きく三つの機能があることを紹介しています。

一つは、親子で温かな時間を共有することで「人との関係性や協働性を育むこと」。二つ目は、さまざまな言葉に触れ、文字への興味が生まれることで「語彙や文法を学ぶこと」。そして三つ目は、絵を手がかりに現実を飛び越え、昔話やお化け、冒険、未来などの世界へ入り込むことで「想像する力を育むこと」です。

白ゆりでも「読み書き」の活動を大切にしていますが、私達が目指しているのは、ただ早く文字が読める、上手に書けるようになることだけではなく、言葉って面白い、本って楽しい、もっと知りたいという経験です。絵本の世界でたくさんの言葉に出会い、想像し、感じ、誰かと話したくなる… やがて自分で「読む」「書く」という学びへ自然に繋がっていくことを狙いにしています。

札幌には、そんな絵本の楽しみ方を少し違った角度から体験できる場所があります。中央区にある「ふきのとう文庫」には、手作りの「布の絵本」があります。ページを眺めるだけではなく、触ったり、動かしたり、ボタンをはめたり、ひもを結んだり。手を動かしながら物語や遊びの世界を楽しむことができます。

実は毎年、つぼみぐみの子ども達が「ふきのとう文庫」にお邪魔して絵本の楽しさに出会っています。先日の「nicocafe」でも行ってきました。

紙の絵本も、布の絵本も、入口はまず「楽しい！」であってほしいですね（笑）

秋の夜長、ご家庭でも少しだけテレビやスマートフォンから離れて、お子さんと一緒に一冊の絵本を開いてみてはいかがでしょうか。「ちゃんと聞いているかな」「内容を理解しているかな」と考え過ぎず、同じ絵を見て、笑ったり、「次はどうなると思う？」と話したりするだけでも十分です。

大好きな人と一緒に楽しんだ一冊の絵本… その記憶こそが、子ども達の言葉を育て、想像する力を広げ、やがて自分から学ぼうとする力へと繋がっていくのだと思います。

ぜひ一度「ふきのとう文庫」に親子で足を運んでみてください（笑） 札幌市中央区北6西12-8-3

= 給食費・バス通園費改定のお知らせ =

本園では、毎日の給食を「こども給食センター」より提供していただいております。北海道産の食材を大切に使いながら、子ども達の成長を考えた、安心・安全で美味しい給食を毎日届けていただいております。食材をはじめとする原材料費の高騰が続く中、これまでと同じ品質と内容の給食を安定して提供していくため、こども給食センターより給食費改定の要請がありました。これを受け、令和9年4月より、給食費を月額7,200円に改定させていただきます。保護者の皆様には新たなご負担をお願いすることとなり、大変心苦しく感じております。一方で、子ども達にとって毎日の給食は、成長を支える大切な「食」の時間です。価格だけを優先して食材や内容の質を下げるのではなく、これからも安心して口にできる食材を使い、「美味しい」と笑顔で食べられる給食を届けていくことを大切にしたいと考えております。

また、近年、燃料価格の高騰に加え、車両の点検・整備費、タイヤや部品代、人件費をはじめとするさまざまな物価・諸経費が上昇し、通園バスの運行にかかる費用も年々増加しております。園としても、できる限り現在の通園費を維持できるよう努めてまいりましたが、これからも子ども達の安全を第一に、安定した通園バスの運行を継続していくため、令和9年4月よりバス通園費を月額4,000円に改定させていただきます。

今回の給食費と通園バス費改定の趣旨をご理解いただき、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。